

1. 文化庁連携事業の展開について

—特別講義と学部生による宇治宝蔵院所蔵 鉄眼版一切経版木調査—

横内 裕人

1. はじめに

文化庁との包括連携協定にもとづく、教育・研究の連携活動の一環として、文化庁・京都府・府大連携特別授業「文化財保護の最前線」を開催し、また歴史学科学部生が文化庁主催文化財調査（於宇治市五ヶ庄宝蔵院）に参加した。

2. 特別授業「文化財保護の最前線」

（1）前期講義

日時 2024年7月24日（水） 稲盛記念会館 106号室

参加者 学生 97名、教員 8名

内容 稲穂将士氏（京都府文化財保護課技師）特別講義「京都府の学芸員・文化財保護行政」
中野慎之氏（文化庁文化財第一課調査官）・吉野健一氏（同）によるコメント
歴史学科教員を交えたクロストーク

稲穂氏からは京都府の博物館行政について、文化財保護法改正以後の観光・地域振興にシフトした昨今の情勢や京都府立の博物館の事業の実態と課題について講義があった（写真1）。

（2）後期講義

日時 2024年11月20日（水） 京都府庁旧本館（旧議場）

参加者 学生 34名、教員 5名

内容 地主智彦氏（文化庁参事官付地方展開企画調整官・文化財第一課主任文化財調査官）
特別講義「文化財保存技術（美術工芸品）の保護—過去・現在・未来—」



写真1 前期授業（稲穂将士氏による講義）



写真2 後期授業（地主智彦氏による講義。
右奥はあべ俊子文部科学大臣）

長谷川貴信氏（京都府文化財保護課技師）によるコメント

歴史学科教員を交えた質疑応答

地主氏は、国による文化財修理の実践と課題について、文化庁による施策と修理の実際を紹介し、用具・原材料の供給や修理にかかわる人材育成について直面する課題を詳細に講義した。授業にはあべ俊子文部科学大臣の視察があった（写真2）。

3. 文化庁主催文化財調査への学部生の参加

日時 2024年11月18日（月） 宝蔵院（宇治市五ヶ庄）

参加者 横内裕人（教員）、黒住大輔、西悠汰（以上4回生）、村上摩耶（3回生）、上武恒介、王綾香、小林祐子、佐藤祐治、角南博紀、高尾悠冬、山崎敬幸、若山阿美（以上2回生）、呉皓楠、藤村昂輝（以上研究生）

宝蔵院において文化庁が主催する重要文化財鉄眼版一切経版木調査を歴史学科学生13名が見学し調査を補助した。学部生は盛井幸道住職、文化庁の平出真宣調査官から鉄眼版一切経版木の歴史、その文化財的価値、調査・取り扱い方法についてレクチャーを受けたのち、平出調査官と文化庁調査に参加している本学大学院生田中琢登氏・趙金実氏・濱野覚生氏の指導のもと、版木のクリーニング・採寸・データ入力などの作業をおこなった（写真3）。学部生は、本講義を通じて、国指定文化財の実際の調査を経験し、文化財調査での注意点、行政による調査の意義などについて理解を深めた。授業後アンケートからは、所有者の文化財保護への思いに触れた、文化財管理の困難さを実感できた、などの感想が寄せられた。



写真3 収蔵庫内での講義風景

編集後記

余裕をもって仕事に取り組みたい。一つ仕事が終わる度に今度こそはと思うが、今回も果たせなかった。文字通りバタバタ。年末から長い師走が続いている。一つの救いは、春からのフィールドワークに始まり、冬の集報に終わるこの一連の営みが、10号を越え、府大歴史学科の伝統として根付きつつあること。フィールドをご提供いただいた関係各所のご厚意に深く感謝申し上げたい。

なお本書の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの合同実習メニューとして学部生がAdobe社のInDesignを利用しておこなっているが、もちろんそのままでは本にはならない。一書にまとめるにあたって力を尽くしてくれた大学院生の頑張りにも深く感謝したい。(い)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第11号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

発行日 2025年3月31日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2
